

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100812		
法人名	株式会社 ゆずり葉宮の森		
事業所名	グループホーム ゆずり葉宮の森(1階)		
所在地	札幌市中央区宮の森2条5丁目2番27号		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100812-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和4年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接している宮の森保育園と行事を一緒に行う以外にも日常的な交流があり、子供達と接する機会が多く設けられています。また、夏には納涼祭を開催し、地域の方々をお招きすることで交流を図る場にもなっています。ホームの付近には公園が点在しており、北海道神宮や円山公園があります。その他にも個別対応として中央市場への外食やショッピングへ出かける等外出に力を入れています。お花見や敬老祭等の季節の行事も多く企画されており、各ユニット同士の交流も盛んに行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、都心に位置し地下鉄駅から徒歩8分ほどの閑静な住宅街の一角に建てられています。周辺はスーパーや公園、中学校、児童会館、病院、銀行など公的機関も多く利便性に優れています。例年は地域や併設の保育園とは日常的に交流があり、園児と行事を一緒に行ったり町内の青空カーニバルに参加したり事業所の夏祭りに招くなど利用者の楽しみ事の一つとなっていました。コロナ禍の為に自粛しています。外出行事も職員がいろいろ考えて事前に見学をし、公共の乗り物を利用し外食や買い物、花見、小樽や空港など人との関わりを多く持てるよう支援していましたが、現在は中止しています。外出できない分、職員は食事の時間が楽しくなるよう利用者の希望に応じたメニューやイベント食を考えたり、室内で出来るレクリエーションを企画し一緒に楽しんでいます。医療面は利用者及び家族の意向を大切に納得が得られた主治医を協力医とし往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるよう支援しています。早くコロナが収束し以前のように地域や保育園との交流が持てるよう又自由に外出が出来る日を職員は利用者と共に待ち望んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を掲示しており、実践につながるよう努力をしている。	「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を基本とした事業所独自の運営理念をパンフレットに掲載し、玄関や各ユニットごとに見やすい場所に掲示しています。職員は日常業務を通して職員同士が話し合い確認しながら理念を共有しケアの実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。	例年は、隣接している保育園との交流や町内会行事の青空カーニバルに参加したり、事業所の納涼祭に地域の方々にも参加して頂くなど、利用者の楽しみ事となっていました。コロナ禍の為、外部との接触を自粛しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	宮の森保育園主催の夏祭り等の行事に参加したり、ホームで納涼祭を開催した際に地域の方々にも参加して頂くことで、認知症に対する理解を深めて頂くよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により地域の方々の参加を見合わせ、話し合いを行っている。	運営推進会議はコロナ禍の為外部の構成員が参加ができない状況にありますが、代表者と管理者3名のほか看護師も参加し2ヵ月ごとに会議を開催しています。代表者の意見や行政からの情報のほか各ユニット管理者から利用者の状況や毎月の行事とヒヤリハットや事故の再発防止の取組についての報告が行われ、会議の内容をまとめた議事録を作成しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携を取るよう努めている。	行政とは代表者が対応しており、ワクチン接種やPCR検査についての相談や事業所の状況報告などを行い担当者から助言や意見を得るなど情報交換し協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し定期的な話し合いを行っている。また積極的に研修へ参加し、そこで学んだものをケアに取り組んでいる。	身体拘束適正委員会を設置し指針や研修記録、マニュアル、議事録を整備しています。職員は虐待防止について内部研修を行い、不適切な言動や利用者の身体状況を確認し職員同士話し合いを持ちながら日々身体拘束をしないケアの実践に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加者による発表や内部研修等で学び、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に研修に参加することで学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理箱を設置している。	コロナ禍で家族の来訪に制限があり利用者との面会も厳しい状況にあります。管理者は都度電話で利用者の様子をお知らせし、意見や要望を伺うようにしています。また行事報告や利用者の写真を多く掲載した月一回発行の「ゆずり葉だより」を送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行い、意見提案を聞く機会を設けている。	日常業務のなかで職員同士が話し合い、気が付いたことや意見を管理者に話すようにしています。代表は職員体制についてのアンケートを取り意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の調整など、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的な参加、内部研修でのグループワーク等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	実務者研修に参加し交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中での楽しみを共有できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	互いに情報を共有できるよう、常にコミュニケーションをとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	通常時は利用者の馴染みの喫茶店にコーヒーを飲みに行ったり保育園の園児との交流や知人との面会など利用者の希望に応じ関係が途切れないよう支援していますが、現在はコロナ禍の為自粛しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでもフォローできる体制を整えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向の把握に努め、本人本位の検討を行っている。	職員は、毎日の関わりの中で利用者の思いや希望を聞き取るように努めていますが、困難な場合は、表情や発する言葉、気づきや生活歴、家族からの情報収集の把握に努め職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族の意見や要望、担当医師や看護師の助言を基に職員の気づきなどを話し合い、ユニットごとにカンファレンスノートや伝達ノート、課題分析表、介護記録を用いて情報を共有し現状に即した介護計画を作成しています。利用者の状況変化に応じて介護計画を都度見直しをしています。独自の書式を使用していますが連動性があり見やすく利用者の様子を詳細に記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた記録を行っており、訴えを詳細に記録し、情報の共有や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響により、保育園の行事参加や外出を見合わせている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援を行っている。	利用者及び家族の希望を大切にし納得が得られた主治医を協力医としています。他科への受診も可能で往診や看護師との連携で、利用者が適切な医療を受けられるように支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族を含めた主治医との面談、話し合いを行い、本人、ご家族との方針の共有、支援に努めている。	重度化や看取りに関する指針を作成し、入居時に利用者や家族へ事業所での対応を説明し同意を得ています。利用者の状態の変化に伴い都度、家族や主治医、看護師、職員と話し合いを繰り返し持ちながら今後の対応や方針を共有しています。また事業所は看取りを経験しており全職員で支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて心肺蘇生法やADEの使用方法的訓練を行い、各々身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して全職員が対応できるよう努めている。	コロナ禍の為外部への声掛けは難しい状況ですが、職員と利用者が参加し火災のみの避難訓練を2回実施しています。水害時に於いての計画「社会福祉施設避難確保計画」を策定した旨の報告書を各ユニットで保管し今後訓練内容や研修を検討していく予定です。	火災訓練以外にも地震やあらゆる災害に備えて、昼夜のトイレ介助や入浴介助時など多様なケア場面での避難対策を考え訓練を実施することを期待いたします。また非常食や備品なども再度確認することを期待いたします。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの確保に努めている。	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない声掛けや職員同士の伝達の際などはイニシャルで話すなど配慮しています。個人記録等は目に触れない場所に保管、管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員側の決まり、都合を優先させてしまうことがあるが、ご本人の希望にそって生活できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選んで頂いたり、その時に応じて化粧をしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しんで食事をして頂けるよう、援助を行っている。	カロリー計算された食材とメニューは業者から届きますが調理や盛り付け、後片付けは出来る範囲で利用者と一緒にしています。ユニット合同でのクリスマス会やイベント食、誕生日には利用者の希望に応じたメニューや季節の行事食を提供したり、時には職員がメニューを考えて食事を作るなど、様々な工夫がなされ食事の時間を楽しんでいます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表を使用し、1日を通じた水分量、食事摂取量を把握し、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人に応じたケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄間隔や習慣を把握し、支援を行っている。	職員は利用者個々の排せつチェック表でパターンや習慣を把握しており、声掛けに配慮しながら誘導しトイレでの排泄を基本とし自立に向けた支援をしています。衛生用品は利用者の希望に応じ家族とも相談しながら使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便間隔を把握し、積極的な乳製品の提供等、個々に応じた取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々に沿った支援ができるよう努めている。	入浴は週2～3回利用者の体調や希望に応じ支援を行っています。入浴剤を使用し香りで楽しみ気持ちよく入れるよう配慮しています。足浴をしながらシャワー浴を希望する利用者もおり、職員と会話をしながら入浴の時間を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	温度版を使用し、スタッフ一人一人が服薬に関して理解が深まるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に見合った支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、現在外出支援を見合わせている。	例年は、毎日の散歩をはじめ、車いすを利用し近隣の北海道神宮や円山公園へ行ったり、利用者の希望に応じて喫茶店に行くなど個別対応も行っています。職員は、事前に下見をし公共の乗り物を利用して外食や買い物、千歳空港や小樽へ行くなど人との関わりを多く持てるように外出の機会を多く設け利用者と一緒に楽しんでおりましたが、現在はコロナ禍の為外出を中止しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様にのみ支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮、工夫をし居心地よく過ごせるようにしている。	居間には食卓テーブルや、ソファー、温度計、加湿器、和室の部屋、少し離れたところには多目的室もあり、季節の飾りつけや壁には利用者の作品や写真が掲示されています。利用者は居間で過ごすことが多くテーブルを囲み職員や利用者同士談笑したり、趣味活動をしたり図書コーナーを設けるなど思い思いの場所で寛いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に仕切り等がないため、独りになることは難しいが、入居者様が思い思いに過ごせるよう支援を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参して頂く等して、居心地よく過ごせるよう工夫をしている	6畳の居室にはクローゼットや防災カーテン、パネルヒーターを設置しています。利用者は使い慣れた馴染みの家具や調度品を持参し、壁には趣味の油絵や写真を飾り利用者が居心地よく安心して過ごせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう支援をしている。		